

特集 / 国際化の取り組み

互いの違いを認め合い

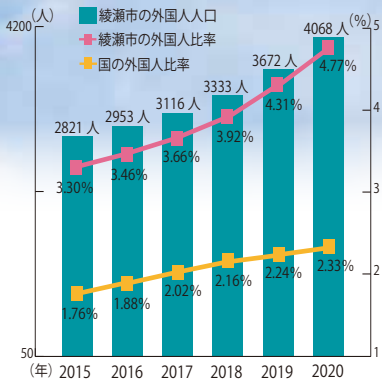
共に住みやすい 多文化共生のまちへ



市の外国人比率は約4.8%と県内で3番目に多く、49の国・地域出身の4000人超の外国人市民が生活しています。皆さんも、店などで活躍する外国人市民と出会う機会が増えたのではないのでしょうか。全国的に人口減少が進む中、地域の活力と魅力を高めるためには、外国人市民も地域社会を共に担い支え合う一員であることを互いに理解することが大切です。

まずは相互理解の第一歩として、「言葉の壁」について考えてみませんか。

企画課 ☎70・5657



共に暮らしていく中で、「言葉の壁」や異なる文化の理解に悩む方も多いのでは。ここでは、外国人市民の思いや課題を探るために、市で「言葉の架け橋」として活躍している行政通訳員の方に話を聞きました。



地域で仲良く暮らすため、日頃からの声掛けが大切だと思います

飯田 えり子ササーナさん (アルゼンチン出身)

アルゼンチン生まれ、20歳の時に家族と共に日本に来た飯田さん。神奈川で働き、暮らすことを家族で決めました。結婚後は子どもが市内に進学したこともあり綾瀬に家を購入。今や日本での生活の方が長くなりました。

来日当初は日本の文化や言葉に慣れるのに時間がかかったという飯田さんは、日本語を学ぶため働きながら定時制高校に4年間通いました。「そこで友だちができ、日本の文化なども学びました。知らない漢字にはルビを振ってくれたり、たくさん助けてもらったりしました」といいます。当時は日系人が少なく、外出先で接する日本人は今ほど親切でなかったとのこと。「バス停や駅で行き先の漢字が読めず『〇〇へ行きますか?』と聞いても『書いてあるでしょ?』という顔をして教えてくれなかったんですね。顔が日本人なので外国人に見られなかったのです」と振り返ります。

昨年行政通訳員(スペイン語)として活動を開始。「綾瀬には外国につながる方がたくさん生活しています。国籍にかかわらず、お互いが仲良く暮らしていくためには、地域活動に誘うなど日頃のちょっとした声掛けがあったらいいと感じます」と語ります。



お互いが“友だちになろう”の気持ちで付き合えたら

横田 直美さん (ブラジル出身)

ブラジル生まれ、13歳のときに日本に。綾瀬市在住のブラジル人と結婚し、昨年ブラジルの家庭料理を提供する店をオープンしました。「綾瀬は都会すぎず田舎すぎない、暮らしやすいところが好きです」と話す横田さん。来日当初はやはり言葉で悩んだと言います。「私はまったく日本語がしゃべれませんでした。名前や見た目は日本人、なのに話せない。“外国人っぽくない外国人”それが苦痛でした」と振り返ります。唯一ひらがなは読めましたが、意味が分からず「言葉の壁を強く感じた」といいます。

幸い通っていた中学校に国際教室があり、国語と社会の時間はそこで勉強したそうです。「学校の先生や地域ボランティアの方には本当にお世話になりました」とも。そのときのサポートがうれしく、今度は自分がサポートする側になろうと行政通訳員制度がスタートしたときに登録(ポルトガル語)。今年で9年目です。

「外国人は大きな声で話すし、ジェスチャーも大きいから誤解されがち。でも遠くから眺めるのではなく、“友だちになろう”という気持ちで近付いてほしい。例えば地域のお祭りなどにも、ぜひ声を掛けてほしいです」と話します。



市役所の窓口で応対する横田さん

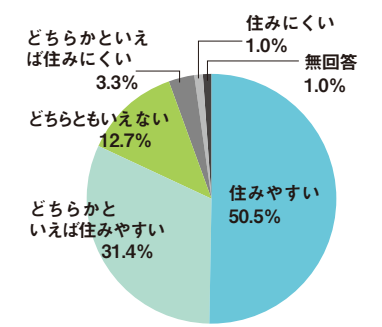
●行政通訳員とは? 市の窓口で手続きなどを行う際に通訳支援を行う方々です。英語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語の通訳員を配置しています。言語ごとに利用できる日が異なるため、詳細は企画課へ確認してください。☎同課 ☎70・5657

外国人市民の “声” を聞きました

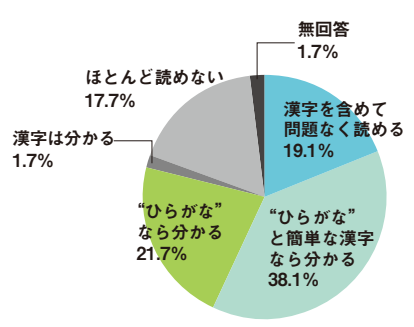
～「外国籍市民の活躍に向けた実態調査」結果～

市では、外国人市民の方のニーズや課題を把握し、今後の取り組みに役立てるためのアンケート調査を実施しました。その結果の一部を紹介します(詳細は市ホームページに掲載しています)。

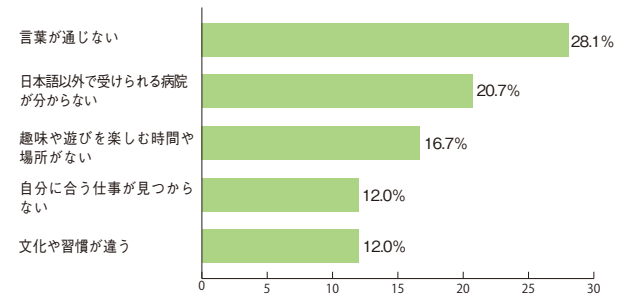
綾瀬市は住みやすいまちだと思いますか?



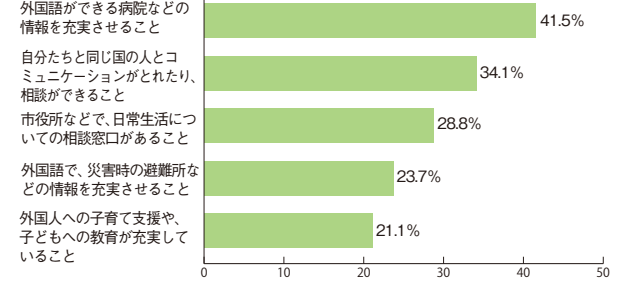
日本語をどのくらい読めますか?



日常生活で、悩みや困ることは何ですか?



住みやすいまちにするために何が必要ですか?



調査結果から、外国人市民の多くが、本市が住みやすいまちだと満足している一方で、「言葉の壁」が生活上の一番の悩みであることが明らかとなりました。その中でも、病院など医療に関する「言葉の壁」解消のニーズが最も高くなっています。市では、多文化共生のまちづくりの第一段階として、外国人市民の「言葉の壁」解消に向けた、さまざまな取り組みを進めています。

「やさしい日本語」の活用

「やさしい日本語」は、通常使用している日本語よりも簡単で、外国人にも分かりやすくなった日本語のことです。市役所窓口での会話や送付文書のほか、公共施設の案内表示などの活用に取り組んでいます。☎企画課 ☎70・5657

医療用3者通話システムの試験導入

医療用語に対応できる専門通訳員との通話が可能なシステムを、市の保健医療窓口や休日診療所などに試験導入し、最大の課題である保健医療分野の「言葉の壁」解消を目指します。☎健康づくり推進課 ☎77・1133

ごみ分別促進アプリ「さんあ〜る」の多言語対応

ごみの収集日や分別方法などのごみに関する情報を、多言語で見ることが出来ます。☎リサイクルプラザ ☎70・5667

あやせ安全・安心メールのやさしい日本語対応

あやせ安全・安心メールの全ての情報に「やさしい日本語」を併記し配信しています。☎市民協働課 ☎70・5687

多言語ICTツールの活用

市役所と市内全ての小・中学校に音声翻訳システムの配備を進めているほか、私立幼稚園と民間保育所への導入支援も行っていきます。☎企画課 ☎70・5657、子育て支援課 ☎70・5615、教育総務課 ☎70・5649 ※ICT=情報通信技術

日本語ボランティア教室との連携・支援

外国の人たちに日本語を教える教室への支援を行っています。市内では一般向け教室のほか、小学生や宗教上の理由から女性などに対象者を絞った教室などがあり、外国人市民同士や日本人市民との交流の場にもなっています。☎企画課 ☎70・5657